

## はじめに

岐阜県のレッドデータブック（初版）は平成13年に作成されている。当時、国においては平成3年に初版発行後、改訂版を順次発行していた時期であり、岐阜県においても環境問題、とりわけ自然環境保全の必要性が叫ばれ、学術的にも、また社会的にも関心が高まっていたところであった。そんな状況を受けて、岐阜県でもレッドデータブックを作成したわけである。

平成13年にレッドデータブックを発表したところ、貴重なご意見をいただいた。また、このリストには「急激にその個体数を減少しこのままでは絶滅の危機に瀕している種」を掲載しており、保全活動が功を奏すればリストから外れるものがあるが、その後も改善は進まないなど、保護活動がうまくいかないことを実感した。

野生生物の危機的状況というのは年々その状況が変化するものであり、定期的にモニタリングしていく必要がある。

こうした事情から、平成19年3月に改訂のための岐阜県レッドデータブック改訂調査検討委員会の第1回目の会合を持った。そこでは別に掲げるような部会を設定し、さらに各部会では委員以外の方たちにも調査員として加わっていただいで打ち合わせ、調査などを行った。断続的に委員会と部会さらに現地調査を行いつつ、平成22年8月に「岐阜県レッドデータブック（動物編）改訂版」を公表、そしてこのたび、平成26年3月に「岐阜県レッドデータブック（植物編）改訂版」を公表するに至った。

今回改訂した植物編は、前回改定した動物編とともに、初版と比較して選定数が大幅に増加しており、動物編では初版211種から119種増えて330種となり、植物編では189種から364種増えて553種となった。専門家の協力を得てデータの蓄積が進んだことにより、基礎データが増えたことが主な理由であるが、いずれにしても、県内の希少な野生生物の絶滅が危惧されている。

このデータは行政、県民各位、事業者など各方面でご活用いただき県内の生物多様性の保全に寄与できることを切に願うものである。

このたびの改訂に際しては県内外の有識者から日頃の調査資料、標本など多くの情報をいただくなど、改訂委員以外にも多数の人たちの献身的なご協力の上に完成したものである。末筆ながら心から感謝を申し上げる。

岐阜県レッドデータブック改訂調査検討委員会  
委員長 田中 俊弘